

スクール・エンパワーメント推進事業【様式】取組み成果リーフレットテーマ：「**学び、交流し、発信する授業**」でめざす**学びの深化**

つきたい力

- 1、主体的に学習に取り組む力
- 2、他者と協働して問題を解決する力
- 3、知識を活用し、表現する力

取組みの概要・ポイント

- ・各教科で情報活用能力について伝え、教科横断的な情報活用能力の向上を意識づける
- ・生徒が必要に応じて、端末の活用や情報モラルについて考えられる活動を増やす
- ・評価指数（ルーブリック）を示し、生徒自身が能動的に課題を解決する道筋を作る

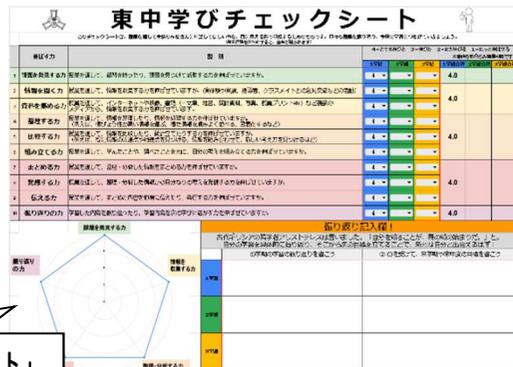
具体的な取組みの流れ

取組み1：教科横断的な情報活用能力の向上

日本教育情報化振興会が示している「情報活用能力を育む授業づくり ガイドブック～中学生版～」を元に、東中学校独自の「東中学びチェックシート」を作成、実施する。

R5年度本校は「思考力・判断力・表現力等」を価値づけるルーブリックを提示した。この活動では、生徒が能動的に課題を解決する道筋を示し、問題解決の道具として1人1台端末を活用するという狙いがあった。R6年度はこの研究を進めるにあたり、成果物だけに目を向けるのではなく、情報を収集、編集、発信する過程にも着目したい。

この活動は現在も各教科で行われているが、「情報活用能力」を教科横断的に見て、学校をあげて、生徒の「情報活用能力」の価値づけ、評価、育成を目指す。



項目	評価	4.0	3.0	2.0	1.0
1. 情報活用能力	授業を通して、適切なツール・機器を活用し、必要な情報を収集・加工・発信する。	4.0	3.0	2.0	1.0
2. 情報活用能力	授業を通して、必要な情報を収集・加工・発信し、課題を解決する。	4.0	3.0	2.0	1.0
3. 情報活用能力	授業を通して、必要な情報を収集・加工・発信し、課題を解決する。	4.0	3.0	2.0	1.0
4. 情報活用能力	授業を通して、必要な情報を収集・加工・発信し、課題を解決する。	4.0	3.0	2.0	1.0
5. 情報活用能力	授業を通して、必要な情報を収集・加工・発信し、課題を解決する。	4.0	3.0	2.0	1.0
6. 情報活用能力	授業を通して、必要な情報を収集・加工・発信し、課題を解決する。	4.0	3.0	2.0	1.0
7. 情報活用能力	授業を通して、必要な情報を収集・加工・発信し、課題を解決する。	4.0	3.0	2.0	1.0
8. 情報活用能力	授業を通して、必要な情報を収集・加工・発信し、課題を解決する。	4.0	3.0	2.0	1.0
9. 情報活用能力	授業を通して、必要な情報を収集・加工・発信し、課題を解決する。	4.0	3.0	2.0	1.0
10. 情報活用能力	授業を通して、必要な情報を収集・加工・発信し、課題を解決する。	4.0	3.0	2.0	1.0

本年度活用予定の「東中学びチェックシート」

取組み2：生徒主体のタブレット活用

①プチ PBL を導入し生徒主体のタブレット活用場面を設定 PBL(Project Based Learning)の考え方を取り入れた、プチ PBL を行い、生徒の主体的な学びを設計する。この活動の多くの場面で1人1台端末を活用する場面を設定、ないし自己選択させ、生徒主体のタブレット活用を促す。

②生徒主体の情報リテラシー授業、学校情報発信活動の実施 各クラスの生徒を有志で募り、学級の生徒とともに、端末の活用やネット情報とどのように付き合うかといった、デジタルシティズンシップ教育に取り組む。また学校での出来事を保護者などに発信する活用を通して、生徒の学びや端末を活用した活動が社会とつながっていることを意識させる。



R5年度に行われた授業活動のうち①や②に該当するであろう授業の図